

向学館通信

2008・4・26

新学年は、いいスタートが切れましたか？

1学期（前期の初め）にいいスタートを切って、定期テストでも好成绩をあげると、以降も「がんばろう」という気持ちになります。はじめが肝心。だから、この時期は何としても好成绩につながるようにしてください。

模擬テスト（Vもし）で、
中3のMさん
英語で偏差値75を達成

関西地方で最も多くの中学生が受験している「Vもし」で、英語の偏差値が75という最高値を獲得したMさんはパソコンでの学習を熱心に行っていました。勉強方法の勝利だと言えます。今後さらに期待します。

人の脳は使えば使うだけ、伸びます

頭の良さは遺伝によるのだから、努力したって仕方がない、と考えている人がいるようですが、頭の良し悪しは遺伝によるのではないという説が普通になりつつあります。最近の脳生理学では、このあたりのことが次第に解明されてきています。

いまの段階でも、たとえば記憶力については、覚えようとすればするほど、それをつかさどる脳の部分の細胞が増えてくるということが分かっているようです。覚えようとしなければ、その部分の脳細胞がどんどん減っていくといわれています。だから、使えば使うだけ、記憶力が良くなるのです。逆に、使わなければ、ますます劣化していきます。これは、筋肉と同じです。鍛えれば100キロ以上の重さを軽々と持ち上げられます。しかし、筋肉をふだん使わない人は、10キロでも重いと感じてしまいます。

覚えることが非常に多い。覚える効率を上げなければ・・・

漢字、熟語、英語の単語、英語の構文、社会の人名や地名、理科の動植物の名称やいろんな法則、などなど、学校生活の時代は、覚えることが、分かることと並んで頭の使い方の大きな部分を占めています。ところが、覚えることが苦手な人は、漢字も英単語も社会も覚えるのが苦痛です。たとえば、漢字を覚えるのが苦手な子は、英単語を覚えるのも困難です。また、社会などの人名・地名などもなかなか覚えられません。このような記憶力の関連性（一つのことを覚えるのが下手だと、他のことも覚えるのが下手だ、という関係）も、以前からわかっていたのですが有効な手が打てませんでした。これからは対処できるでしょう。「筋力トレーニング」不足のために「何事にも弱い体力」になっているのと同じですから、「筋力」でなく「記憶力トレーニング」を実践していくことで、力量の底上げをはかりたいと思います。

当塾では、「わかる、わからせる」を一番大事なことと考えていますが、「わかる」の前に、基礎的なことを「覚えられない」ようでは、理解への道の大きなブレーキになりますので、記憶する力の育成もきわめて重要なことだと考えます。

記憶力を向上させる方法を使って、英語力も伸ばそう

記憶力を良くし、多くのことを覚えるには、繰り返し覚えようとするのがいい方法だと言われています。言ってみれば当たり前のことで、一度では覚えられないことでも三度、四度と繰り返せば、自然と頭に残っていきます。この当たり前のことが出来ないために記憶力も育たず、ますます覚えることが苦痛になるのです。しかし、覚えるにはこの方法しかないのです。

当塾の生徒にも、英語の学習をするのにテキストの問題を解くという方法をやりたがる傾向があります。数学は問題を解くことで力が伸びますが、英語はこうした勉強方法では力がつきません。英文を丸暗記するのが、英語という言葉に馴れる近道です。例えば、京都で一番多く東大や京大に合格させている有名な高校の英語の宿題は、教科書の丸暗記(音読)だといいます。

私たちは、脳生理学の成果や一流校の教育方法を参考にして、英語の勉強方法の改善にこれからも努めていきたいと考えています。

漢字検定試験(漢検)は、8月22日(金)です。

申し込みの締切日は7月18日です。今から、計画的に漢検対策を進めてください。